



シンボルマーク
と標語

まちづくり委員会広報

千僧供町

・かよい合う 心でつなぐ まちづくり
・いにしえの 千僧の村 皆のまち

編集発行

〒523-0016

近江八幡市千僧供町

会議所内

まちづくり委員会

TEL(0748)37-1234

広報部担当

小川 博久

No. 007

平成十二年四月に地方分権一括法が施行され、これまで地方へ移譲されてきた様々な事務や権限が



「協働のまちづくりに向けて」
自治会長 小西末男
新年あけましておめでとう。皆様、今年も健康とご多幸をお祈り申し上げます。昨年は自治会活動に格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、本年は新市長の誕生により、近江八幡市政も新たなスタートとなり、千僧供町まちづくり委員会「活動計画」に基づき、実際に活動の場を広げていただきます。確信致しております。

近江八幡市ボランティアセンターが、九月二十六日(火)見学講習会に来られた。近江八幡観光物産協会の依頼により、まちづくり委員会の案内を務め、会議所で千僧供町のマップ・「住蓮房・安楽房の物語」・「千僧供町の紹介パンフレット」による概略説明をしました。

千僧供町で見学講習会開催

ようなか、近江八幡市において、まちづくり基本条例案が策定され、現在それに付いての開催ミーンディングが各学区で開かれています。今後ますます地方分権化が進む中で、まちづくりは市(行政)との協働が大切な要件となり、まちづくり委員会の活動も多岐に渡り、その存在も大きくクロズアップされてくると思います。理解とご協力が必要となっていくと、今日までの活動を通して培われた知識と経験を充分活かして、常に向き合えるまちづくり運動を展開され、千僧供町まちづくり委員会設立の理念「誰もが住みやすいと思える町」の実現に向け、新しい年を迎える心も新たに、取り組んでいきたいと思っております。



最近、住蓮房について、問い合わせがたくさん市に寄せられています。この事です。

その後、現地説明会を行いました。坊首・洗塚・古墳・蓮花・神社・順次説明し、椿歩きました。

マークの
意味

まちのシンボル供養塚古墳をベースに、中央に椿の花を配したこのマークは、『完璧な魅力と誇り、つつしみ深く、気取らない優美さ』の意味をもち、魅力ある町にどの思いを表現しています。

地域に定着した
委員会バザー！

去る十月二十九日、今年も馬
淵学区文化祭に“千僧供町まち
づくり委員会バザー”を出店さ
せていただきました。

千僧供町の皆さまの多大なご
協力のおかげで、当文化祭には
三年連続の参加と、回を重ねる
毎に地域の方々や主催者に喜ん
でいただき、このバザーもいよ
いよ定着してきたなと実感でき
るようになってきました。

提供いただいた生活必需品や
取れたての新米や貴重な糯米、
さらには新鮮野菜など、質・量



共に年を追う毎に充実し、買い求めに來られた人たちから、こうした千僧供の取り組みにとても関心を示していただき、楽しく交流を図りながら「売り手よし、買い手よし、品物なおよし」で、総額十二万一千二百十五円の高収益をあげさせていたいただきました。



また、今回は特に、生まれつき身体に障害があり、市内に住しておられる森さん（七十二才）が、毎日服用しておられる薬の瓶を利用して、十二才のときに覚えられた竹細工の技術を生かした、一輪挿しの製作をしておられるとの紹介をいただきました。何かの形で協力させていただけ、早速このバザーでコーナーを設けさせていただきました。コーナーでは紹介文を掲

お得情報

インターネット検索秘伝
Yahoo!で「千僧供町」
とキーワードを入れると、
一番最初にヒットするようにな
りましたよ。

館（バザー当日の文化祭で体育館に展示された恒例の綺麗に飾られた千僧供町の左義長）



示し、メンバーの熱心な案内もあり用意いただいた五十個の輪挿しを、多くの方々に買い求めていただくことができました。後日、森さんに輪挿しを売上金一万数千円をお届けさせていただいたところ、大変喜んでいただきました。地域の方々の温かい善意のおかげと感謝申し上げます。

今後、委員会では、今回上げさせてさせていただいた収益金を基に、さらに充実した活動を進めさせていただきます。町内の皆さまには引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

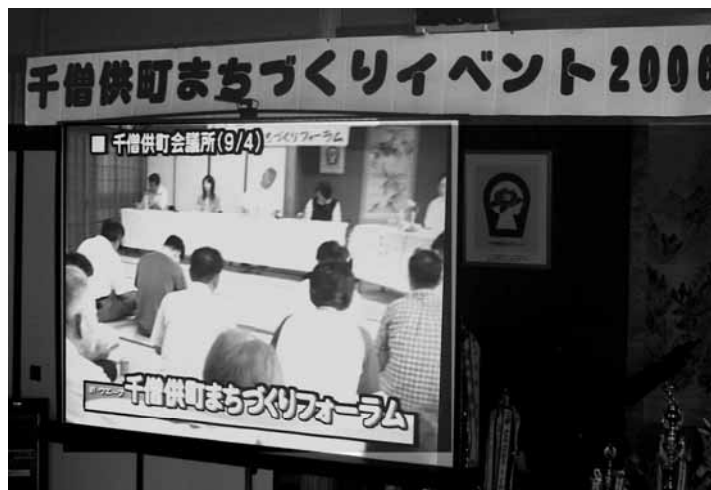
KJ法 「生活改善と祭り」

ラウンド3の「生活改善本質追求ラウンド」は、広報により町民のみなさんに発表済みです。ラウンド3・5の「方針ラウンド」とラウンド5の「具体策ラウンド」を終えましたので、わかりやすくまとめて今年度中（3月）に自治会長に提言する予定です。

「祭り」も同様に取り組んで
います。千僧供には、現在の
ような行事が年間通してある
か、またそれは、どのような
内容なのか、どのように関連づ
いているのかなどを、自治会の
間行事計画表に基づいて模索
です。長老さんなどお持ちの
料を写させて頂いて、たくさん
の資料になつています。入手す
るほど絡み合いうまく複雑にな
つています。マニュアル作りに
うまくマッチした方法を実行し
ながら勘案中です。途中経過に
なるかも知れませんが、こちら
について今年度中に自治会長
に提言したいと考えています。

「住宅案内板」

第二弾は、資料館の建物の道路側の壁に取り付ける予定で
す。そこにあう大きさの離れて
見てもわかるようなものを作成
しましたので、資料館の準備が
できしだい取り付ける予定をし
ています。



九月三日（日）に行われ
た恒例の八朔行事奉納相撲
のあと、午後三時から会議
所で行なわれました。【第一
部】まちづくり委員会の活
動報告と題して、HOTOテ
レビさんに来ていただき、ま
づくり委員会活動の放送
を編集していただくもの
を、編集していただくもの
を放映で見たいだきなが
ら「まちづくり委員会」の
あと・現在の取り組み・今
後の活動計画」などにつ

千僧供町まちづくり
イベント2006

変嬉しく思います。ありがとうございます。とうございしました。今回のイベントは皆さんに大変興味をもつて集まってももらえたと思っています。ご参加ありがとうございました。そして、【第二部】少子高齢化が進む現代社会、老人介護の問題は他人事ではなく、なつて来ます。私たちはどのように考えねばならないのでしょうか。そこで、「明日は我が身、老人介護と助け合い」と題したビデオを鑑賞しました。その中で、



て報告しました。大変うまく編集されているビデオに
関心していました。そのあ
と、当時の川端市長から、「地
域のまちづくり」と題して
講演をいただきました。自
分のやってきた事、熱心に
前向きに取り組む心に時間
を忘れるような熱弁をふる
っていただきました。市長
さんをお迎えできたこと大

最後に、まちづくり委員会の当面の事業と今後の活動と方針を再度確認するためにも記して今回のイベントの報告とします。

(当面の事業)

- ・仮称「まちの手作り歴史資料館」整備事業着手
- ・千僧供町ホームページの充実と有効活用

(今後の活動と方針)

『誰もが住みやすいと感じる町、住み続けたいと思える町』の実現を目指すため

①これまでの取り組みを礎とし、委員会の四つの柱に即した事



介護の現状やサービス・福祉・介護保険の変更点・地域のありかたなどについて考えさせられました。

新七号の発刊が、新しいチカラを得て、第
身近なものにしていききたいと思っ
ています。よろしく。

編集後記

委員会では、一緒に活動していただけるメンバーをさがしています。関心をお持ちの方はいつでも声をかけて下さい。また、まちづくりに関すること、委員会に結構です。ご意見やアドバイスをよろしく願います。



- ② 委員会の活動の更なる充実のため、委員相互が尊重し、協議と合意により事業に当たる。
- ③ 活動による過度な負担を避け、体力があり永く存続できる運営と、組織の充実に努める。
- ④ 町民みんなの意見を取り入れる。たまちづくりに取り組む。
- ⑤ 自治会をはじめとする各機関、団体の活動の精神を尊重し、協業によるまちづくりの推進に努める。

新
千
僧
供
探
訪

五月祭り（五月二日）の朝早くから一番鉦【いちばんがね】・二番鉦・三番鉦が鳴り、袴姿【かみしもすがた】の人達により、馬見岡神社、椿神社でどのような行事が行われているか、町民の方々に知っていただくために、卯の刻渡りについて調べてみました。行事の進行は、文書にて残っていますが、今回は、現代文（馬場 つた著）を紹介させていただきます。

また、四村寄り【よむらより】諸事順繰表を掲載しました。各省略文字の表す意味は、平成一九年度（亥【い】の年）であれば、大囃し【おおばやし】は、千（千僧供）・寄合酒【よりあいざけ】（四村寄りの当番・馬見岡神社松明造り当番）は、西（馬渕）・駕輿丁【かちょう】（神輿当番）【みこしとうばん】は、千（千僧供）と〇印（岩倉）です。

③ 卵の刻渡り
(うのこくわたり)

五月祭禮卯之刻渡り定式

一、千僧供村大囃しの年、壹・式・参番の鉦を打鳴らし、村人に社参の合図を出す。

参番鉦にて村人馬場列継場へ整列して、出立の神酒を戴き、西村々人の法御を待ち居る。

西村々人、下市場街道へ渡御する。同時に役人は、松明を燃やし、日鉾の先に立ち、鉦・太鼓を鳴らし、村人小笹松明を燃し、列を整え、渡御進行す。千僧供村人、中道渡り道へ出でたる時、南村は、字高ノ瀬道（通称 宮平裏）へ松明を立て、出立の合図をなす。

千僧供は、西村（馬淵）・南村（岩倉）双方の進行を見計りて休みつつ、順次（通称 トギス塚）へ着く。

中道橋で休む時、西村おつたて地蔵の所、南村五条橋越の程度で休み、最後に千僧供村・西村七度半使ひの定位置に止まる。此時南村どうどの所迄来る。而する時、神掌・神女・社守松明を燃し、社参に向す。

千僧供村役人は神掌等拝殿着御の松明合図を見、下の広場へ捨てた時、千僧供村役人より西村役人へ、小囃先行の使者を出す。この時、松明を倒す。

之に対し西村役人より千僧供村役人へ先行承諾の使者を出す（全て使いは無言）。

而して、西村小囃は、松明を燃し、出立す。

千僧供村小囃も松明を燃し、之に続く。

西村小囃役人は南村役人へ右同様へ右同様の使者を出す。南村役人は之に対し、承諾の使者を出す。

南村小囃先に立ち西村・千僧供村順次境内所定の位置に入込む。

南村松明大囃・日鉾につかん

ため、山を降りれば、西村役人より千僧供村役人へ、大囃・鉦渡御の使者を遣わす。

之に對し、千僧供村役人渡御の先行の承諾の使者を出す。（この時松明倒す）

而して千僧供村役人、松明・日鉦・鉦・太鼓を鳴らし、村人列して先に立ち、西村次ぎ渡る。社前県道壱県半手前に止まる。南村役人より、大囃渡御の使を遣わす。千僧供村役人之以に答禮の使を出し、千僧供村・西村・南村の順に馬見岡神社々に參じ、鉦・鉦・太鼓は、石段定位置に止まる。

西村酒司顔付す。

終わって、南村壺番・西村式番・千僧供村參番に狂言を催す。

次に千僧供村役人・村人・日鉦・鉦・太鼓を奉持し、神前に於いて、一、二、三、四回と分け鉦を立て、參回ヅツ回轉して定位置に付く、西村・南村同前、南村拝殿前の石に立てれば、千僧供村「ハヤラコ」と言ひ、拝殿を廻り、千僧供村・西村渡御還歸す。

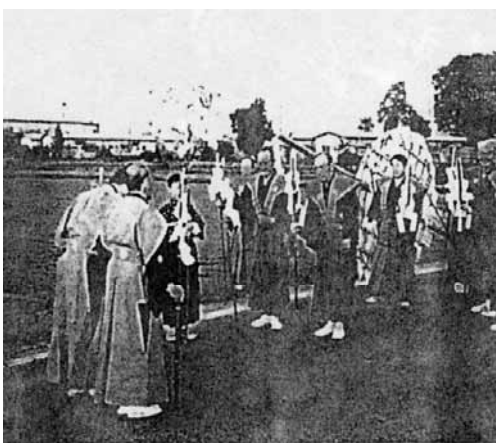
南村は、其の場所より還る。

椿神社へ參向す。

一、小囃は、最初社内に入込みの順に椿社へ向う。

一、椿社渡御の際、西村々人は、樓門の北方溜所・鉦・鉦・太鼓は樓門の南方、千僧供村は、西村の南方、南村は、千僧供村々人溜所の南方、椿神社、神輿還御を待ち居る。

而して、高ノ瀬下馬橋に於いて、烏鳥を抜き取り、社守奉持



卯之刻渡り（馬淵が千僧供へ挨拶をす）

（当社には、坂本日吉神社の移しにて山王祭より先になる故、遠慮する意味なり）
 神輿・神楽・合図に依り、西村々々人、大囃・小囃共に先に立ち、次千僧・供村々々人、鉦・箠共・楼門前の明神分水標・準石の広き方より境内に入込む。
 南村は、狭き方を入る。西村々々人・鉦・太鼓・溜所は・拝殿の東・南・小囃・踊りは北方、千僧・供村々々人・鉦・溜りのなぎの木方・小囃は西村の東方、南村は、楼門の屋根に寄掛ける。
 而して西村・千僧・供村・南村の順に狂言催す。終わりに南村の先に西村・千僧・供村の順に退社、箠返しに向かう。
 （椿社の諸式は毎年不変なり）

平成一七年度より交通事情により七度半の使い（波線の部分）は、廃止になり、馬見岡神社で略式の七度半の使いが行われるようになった。

卵の刻渡り (うのこくわたり)

五月祭禮卯之刻渡り定式

五月祭禮卯之刻渡り定式
千僧供村大難、千僧供村人馬場別館場、整列、
社務、合圖ヲス、三番鉦ヲ村人馬場別館場、整列、
出立、神酒ノ頂上、西村人ハ流御ヲ待居ル、西村人下市街
街道、流御人同職、役人ハ松明ヲ燃シ、日鉦、先ニ五
鉦大鼓ヲ鳴ル、村人ハ松明ヲ燃シ、列々整立、渡御進ハス
千僧供村人中道流道、出立、凡月、南村、定高、船道、通鉦
宜平裏、ハ松明ヲ立テ出立、合圖ヲス、千僧供ハ西村南村
双方、進テ見計、林ミツ、腰次、通鉦唐貴須、逐々着
中道橋ヲ休ム、西村、定高、所南村、五条橋越、程度、林
最後ニ千僧供村西村七度半使テ、定位置ニ止、此時南村
トワド、所迄来ル、而テ社務神女社荷松明ヲ燃シ、社務
向ス、千僧供村役人ハ社掌等拜殿着御、松明合圖ヲ
見、松明下、馬場、捨テ、凡月、千僧供村役人、西村役人、
小難先行、使者出テ、松明ヲ倒シ、三對、西村役人、
千僧供村役人先行衆議、使者出テ、使者無言、而シテ
西村小難ハ松明ヲ燃シ、出立、千僧供村小難ハ松明ヲ燃シ、三對
リ、西村小難役人、南村役人、右同稱、使者出テ、南村役人、
三對、衆議、使者出テ、南村小難、先ニ五、西村千僧供村
順次、境内所定、位置ニ、南村、南村松明大難、日鉦、カク
山ヲ降ル、ハ西村、松明、千僧供役人、大難、鉦、渡御、使者
達、之ヲ、對、千僧供村役人渡御先行衆議、使者出テ、
三對、松明倒シ、而シテ千僧供村役人松明日鉦鉦大鼓ヲ鳴
シ、村列シテ、先ニ五、西村、次ギ渡ル、社前、泉道、定高、半、前
止ル、南村役人、大難、渡御、使者達、千僧供村役人、
答、松明、使者、千僧供村役人、南村、順、馬見、同社、考
鉦、鉦、大鼓、石段、定位置、止ル、千僧供村西村酒司額付、
終、南村、社務、西村、若、千僧供村、三番、狂言、ノ、催、次、千
僧供村役人、村人、日鉦鉦大鼓、奉持、神前、於、二、三、四回
ト、分、鉦、立、テ、參、回、宛、回、結、シ、定、位、月、西村、南村、合前
南村、拜殿前、石、立、止、千僧供村、分、テ、上、テ、拜殿、回、
千僧供村、西村、渡御、還、歸、南村、其、場所、還、北、格、社、考、向、ス
小難ハ最初、社内、入、シ、順、ニ、橋、社、向、
橋、社、渡、着、陰、西村、人、樓門、北方、湯所、鉦鉦大鼓、樓門、
南方、千僧供村、西村、南方、南村、千僧供村、人、湯所、
南方、橋、社、神興、還、御、所、居、ル、而、テ、高、殿、下、馬、橋、
於、テ、烏、鳥、ヲ、振、取、リ、社、掌、奉、持、橋、社、殿、東、口、若、神、社、移、
山、至、祭、司、先、ニ、故、遠、慮、ス、ル、意、味、ヲ、神、興、拜、殿、主、着、御、
凡、月、九、度、三、度、合、圖、ニ、依、リ、西村、人、大、難、小、難、先、ニ、五、
次、千僧供村、人、鉦、等、其、樓門、前、明、神、分、水、標、準、石、
廣、方、ノ、境、内、ニ、込、メ、南村、ハ、狭、方、ヲ、入、ル、西村、人、
鉦、本、致、湯、所、拜、殿、東南、小、難、等、歸、ハ、北方、千僧供村、
人、鉦、湯、ノ、本、方、小、難、ハ、西村、東方、南方、南村、樓門、
屋、根、寄、掛、ル、而、シ、テ、西村、千僧供村、南村、順、狂、言、催、
終、リ、テ、南村、先、ニ、西村、千僧供村、順、ニ、退、社、筈、返、向、
(橋、社、結、式、ハ、毎、年、不、変、ナリ)

諸事順繰

四村寄り【よむらより】

○印南村

駕馬下

蟹羹

弄令頭

大雅

于支

平戎

聖其下

聖母下

要合須

大雑

干支

年号
和昭

加世丁

加謀丁

大晴

干支

昭和

272

西0	西千	丑9	西0	西千	巳32	西0	西千	酉32
西千	西千	寅10	西千	西千	午53	西千	西千	戌33
0千	西千	卯11	0千	西千	未54	0千	西千	亥34
西千	西千	辰12	西千	西千	申55	西千	西千	子35
西0	0千	巳13	西0	0千	酉56	西0	0千	丑36
西千	西千	午14	西千	西千	戌57	西千	西千	寅37
0千	西千	未15	0千	西千	亥58	0千	西千	卯38
西千	西千	申16	西千	西千	子59	西千	西千	辰39
西0	千千	酉17	西0	千千	丑60	西0	千千	巳40
西千	0西	戌18	西千	0西	寅61	西千	0西	午41
0千	西千	亥19	0千	西千	卯62	0千	西千	未42
西千	西千	子20	西千	西千	辰63	西千	西千	申43
西0	西千	丑21	西0	西千	巳64	西0	西千	酉44
西千	西千	寅22	西千	西千	午2	西千	西千	戌45
0千	0千	卯23	0千	0千	未3	0千	0千	亥46
西千	西千	辰24	西千	西千	申4	西千	西千	子47
西0	西千	巳25	西0	西千	酉5	西0	西千	丑48
西千	西千	午26	西千	西千	戌6	西千	西千	寅49
0千	西千	未27	0千	西千	亥7	0千	西千	卯50
西千	0西	申28	西千	0西	子8	西千	0西	辰51



千僧供町会議所



馬見岡神社



馬場邸



馬場邸

KJ法で資料収集調査中に大切な写真を提供頂きました。これはなんだかわかりませんが、懐かしい、写真の方々、掲載承諾うかがってなかったらお許し下さい。



岩井明神



四分四分二分石



御輿渡御



馬場広場幕中